

犬コロナウイルス感染症に罹患したヤブイヌの飼育事例報告

五十嵐 多鶴子

よこはま動物園では 2004 年に犬コロナウイルス感染症と疑われる症状でヤブイヌが死亡した経緯があり、対策として 2009 年 12 月 27 日に幼獣 4 頭にワクチン接種をおこなったところ、3 日後に伝染性の腸炎を発症し、その後の調査によりワクチン由来のウイルスが原因であることが確認された。これを始まりとして園内に犬コロナウイルス感染症が蔓延し、現在までに 9 頭が腸炎によって死亡したが、2018 年 10 月と 11 月の 2 回の糞便検査によって陰性化していることが確認された。

今回は、陰性化が確認された時点で、オオアライクイ舎で隔離飼育されていた No.40♂、No.43♂、No.46♀の 3 頭の飼育経過報告を行う。調査期間は 2015 年 11 月 16 日から 2019 年 1 月 31 日である。犬コロナウイルスが発症したと推察される際、特徴的な刺激臭のする明るい黄色の水様便を排泄することが多い。そこで、この特徴的な排泄が確認された場合を「発症」とし、調査期間中の発症頻度を調査した。

その結果、No.40♂と No.46♀は、調査期間中一度も発症せず、顕著な体重減少もなく、便状も良好傾向にある。これに対して No.43♂は調査期間中、不定期に発症を繰り返し、陰性化が確認された後も、下痢や食欲不振による消瘦が進行して衰弱死した。

しかし、陰性化した時期がいつなのか、また再発する可能性があるのか等、依然として不明な点が多い。そのため定期的に糞便検査をおこなうなど、今後も継続した調査が必要であると考えられる。